

国際宇宙ステーション船外で、フルサイズミラーレス一眼カメラ『α 7S II』が 民生用カメラとして世界初となる 4K 映像の撮影に成功

ソニーのフルサイズミラーレス一眼カメラ『α 7S II』は、国際宇宙ステーション (ISS) の船外で 4K (QFHD 3840 × 2160) 映像の撮影に民生用カメラとして世界で初めて^{※1} 成功し、本日、当社はそれらの映像を公開しました。

映像は、雪に覆われた峰々の凹凸や、大都市圏の街明かり、色調の違いまでを鮮明に捉えた宇宙からの日本列島の昼と夜の姿です。これらは高感度性能をもち、高解像度 4K 動画記録が可能な『α 7S II』だからこそ捉えることができたものです。

『α 7S II』は、ISS の「きぼう」日本実験棟に設置された、新たな船外プラットフォーム用カメラシステムの内蔵カメラとして使われています^{※2}。宇宙航空研究開発機構 (JAXA) によって行われたさまざまなカメラの検証試験の結果、高真空・宇宙放射線・急激な温度変化など、宇宙ならではの過酷な環境に耐えうる耐久性と信頼性を『α 7S II』が保持することが確認され、採用に至りました。

『α 7S II』^{※3} は、種子島宇宙センターから 2016 年 12 月 9 日に打ち上げられた ISS 補給機「こうのとり」6 号機によって運ばれたのち、2017 年 2 月 8 日に「きぼう」の船外実験プラットフォームに設置されました。

現在も、約 90 分ごとに地球を 1 周しながら約 400 キロの上空で 4K 映像や静止画の撮影を行っています。

※1: 2017 年 7 月 27 日広報発表時点。ソニー調べ。

※2: 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) により採用。

※3: 装着レンズは、35mm フルサイズ対応の電動ズーム G レンズ™ 『FE PZ 28-135mm F4 G OSS』。

●ISS の船外で撮影された 4K 映像は、α ユニバース公式サイトでも公開しています。

なお、α ユニバースの英語版サイトには、米国東海岸の映像も掲載しています。

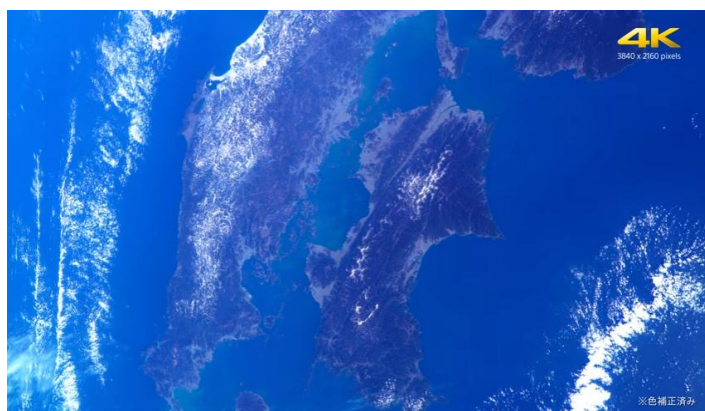
日本語: www.sony.jp/ichigan/space/

英語: www.sony.com/electronics/a7sii-4k-images-kibo-iss

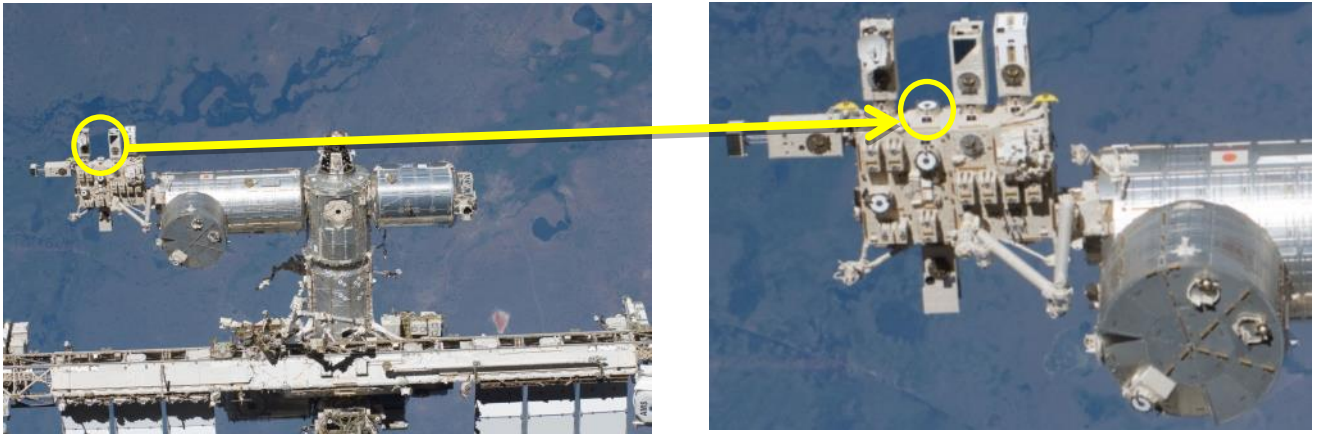
『α 7S II』は、ISO409600^{※4} の高感度性能と広いダイナミックレンジに加え、光学式 5 軸手ブレ補正機能、画素加算のない全画素読み出しによる 4K 動画本体内記録機能を小型ボディに凝縮した 35mm フルサイズ Exmor® (エクスマオ) CMOS イメージセンサー搭載モデルです。

『α 7S II』は、欧州の権威ある「EISA アワード 2016-2017」の「ヨーロッパ フォト アンド ビデオカメラ 2016-2017」(EUROPEAN PHOTO & VIDEO CAMERA 2016-2017) を受賞するなど、発売以降、特にその突出した高感度性能は国内外で高い評価を得ています。

宇宙空間のような低光量環境でも、ノイズの影響を最低限におさえたクリアな高画質撮影が可能になるため、例えば、宇宙からみる夜の地球などこれまで撮影が難しかった場面や、「こうのとり」などの補給機が ISS に近づくシーンなどでも、鮮明な 4K 映像で記録することが期待されています。



『α7S II』



ISS における『α 7S II』の取り付け位置(提供:JAXA/ NASA)

なお、カメラに関するさまざまな情報を発信している αユニバース公式サイトでは、『α 7S II』で撮影された宇宙空間の臨場感あふれる 4K 映像や画像に加え、『α 7S II』が ISS に搭載されるまでの経緯などを紹介しています。

● αユニバース公式サイト

日本語: www.sony.jp/ichigan/space/

英語: www.sony.com/electronics/a7sii-4k-images-kibo-iss

※4 : 拡張感度設定時。

※ α、G レンズ、Exmor は、ソニー株式会社の商標です。

※ その他記載されている会社および商品名は、各社の商標または登録商標です。